

エラ・ヒューストン記念礼拝堂

小室尚子*

2013年2月から建設にとりかかった礼拝堂が竣工し、2014年3月10日(月)13時より定礎板設置式、3月19日(水)10時30分より献堂式を終えました。4月17日(木)には、通常の朝、昼の礼拝に加えて17時30分からも教職員を対象に礼拝を行い、3回とも礼拝堂献堂礼拝として捧げました(一人でも多くの学生、教職員の方々に出席していただきたいため)。新礼拝堂の命名は奥村隆平学長により、「エラ・ヒューストン記念礼拝堂」とされました。

「エラ・ヒューストン」という名前は、旧礼拝堂にも付けられていましたが、金城学院の歴史の中で、宣教師として最も長い期間校長として務められ、現職で天に召された第六代校長(実際は第三代校長ですが、書類上では第六代となっています)エラ・ヒューストン宣教師(1893～1912在職)を記念したものです。

エラ・ヒューストン先生は、28歳の時、アメリカ南長老教会が日本に派遣する宣教師を募集していたのに志願され、1892年10月6日に横浜に着港されました。最初の任地は高知でしたが、翌年、アニー・ランドルフ宣教師の後継者であったオナ・パタソン宣教師の補佐として金城学院に来られました。金城学院の歴史が語られるときには、創立者のランドルフ先生について語られることが多く、他の宣教師についてはあまり触れられませんが、エラ・ヒューストン先生も、初期の金城学院の歴史を語るときに欠か

* 金城学院大学宗教主事、教授

せない方なのです。学内組織や校則を整えたり、金城女学校を学校として整備するのに力を注がれたのはヒューストン先生です。またみどり野会の前身となる同窓会を結成されたのも先生です。現在中学高校の一貫教育の柱となっている「DIGNITY教育」の「dignity」という言葉も、ヒューストン先生が口癖のように生徒達に言われていた“You must have dignity.”という言葉からとられています。そして、金城学院が伝統として守り続けている毎日の朝の礼拝も、ヒューストン先生が整えられたことなのです。何よりも、先生は祈る人でありました。礼拝堂は「神の御言葉を聴くところであり、御言葉に導かれて祈る場所」です。礼拝堂にヒューストン先生の名前がつけられるのは、まことにふさわしいことでしょう。

さて新しい建物は、礼拝堂にキリスト教センター事務棟が併設されており、事務棟には学生達が集えるラウンジもあります。礼拝堂は、楕円形で、天井が高く、柔らかな光の中に包み込まれるような空間です。正面に外光を採り入れた十字架を配置し、周囲の壁面の12の窓から十字架の光が外に向かって射出することをイメージしたデザインになっています。それから、礼拝堂バルコニーにはパイプオルガンが、またラウンジにはステンドグラスが旧礼拝堂から移設されています。

礼拝堂と事務棟合わせてコンセプトは「光」です。「光」と言っても自然の光のことを言うわけではありません。聖書は、天地創造の場面で神の「光あれ」（創世記1:3）との言葉から語り出されます。「近寄り難い光の中に住まわれる方」（1テモテ6:16）であり、光そのものである神が、人間の救いのために遣わされた独り子は「まことの光で、世に来てすべての人を照らす」（ヨハネ1:9）方でした。

ヨーロッパのゴシック様式の教会の、礼拝堂内に射し込む太陽光線はキリストの象徴と見なされていたそうです。私たちの新しい礼拝堂は、ゴシック様式を受けついただけではありませんが、キリストを礎とする金城学院

エラ・ヒューストン記念礼拝堂

大学に集う人々が、キリストの光を受けて霊的に成長し、世界の人々のために働く人材として羽ばたいてゆくことを願っています。毎日の礼拝は、神との対話の中で自分を見つめる時間です。金城学院に集う一人一人のための礼拝堂ですから心の養いのために存分に用いられることを願います。

事務棟のラウンジは、いつでも自由に利用できます。友人との語らいや食事に活用できます。またキリスト教センター委員会では礼拝の説教を担当して下さる牧師や宣教師の先生方との交流会もできればと考えています。事務室にはスタッフがいますので、キリスト教に関する質問や教会についての質問など何でも対応いたします。



金城学院大学キリスト教文化研究所紀要



エラ・ヒューストン記念礼拝堂



エラ・ヒューストン記念礼拝堂工事概要

工 期	自 2013年2月15日 至 2014年2月28日
構 造	鉄筋コンクリート造 地上2階建
建築面積	680.70㎡
建物内容	1階：礼拝堂、ラウンジ、宗教主事室、事務室他 2階：会議室、休憩室、書庫他